留学前報告書

石原裕己
BS in Informatics, University of Texas at Austin
2025/5/22

0. はじめに

この度、船井情報科学振興財団はじめ、さまざまな方のお力添えがあり、2025/9からUniversity of Texas at Austinで情報学を学ぶことができることを、とても嬉しく思います。ご支援いただいた方々に深く感謝申し上げます。この報告書では、留学を考え始めてからの過程を、

1. 高校1年生（思い立ち）から高校2年生
2. 高校3年生前半
3. 高校3年生後半
4. ギャップターム（現在)

にわけて、この文章を見つけた学部留学を考えている方へも少しでも参考になるようなことを、ご報告できればと思います。

1. 高校1~2年生

海外の大学という進路選択を持ち始めたのは、中学生の終わりに読んだ「シン・ニホン」（安宅和人）の影響が少なからずあると思う。日本がAI・データサイエンスにおいて大きな遅れをとっていること、多くの中国の学生がアメリカなどへ留学したのち母国へ戻っており「海亀」と呼ばれていることを知った。大学留学というと、生まれながらに英語の堪能な人が、留学してそのまま現地で就職するイメージがあったが、帰国して活躍するという選択肢をここで初めて知った。　高校が始まる前の春休みで高校のうちに何をしようと考えた時、あくまで憧れでしかなかったが、最高の高校生活の最後には「情報の専門的な知識を求めて留学先に合格する」というメモ書きがあった。　私は「考える前に動け」の人間だったので、まずは、純日本人で海外経験のない自分はとにかく英語の学習をしなければならないと考えて、英検やTOEFLの対策を始めた。思うように点数はあがらず、2年生の後半から3年生の始めまでに終わらせたかったものの、結局3年生の秋頃にようやく目標のTOEFL100点越えを達成することができた。この頃はまだ、日米併願を考えていたので、高校の勉強も熱心に取り組んだ。　高校2年生は特に、学校行事が自分の中で一番好きだったので、生徒会や実行委員などの仕事を熱心に行なっていた。この中で、デジタル関連の仕事やその普及の課題解決を担当する中で、留学の中で学習したいと考えているUser Experience Designや公共デジタルサービスについて興味が湧いた。他にも、ケンブリッジ大学への海外研修に参加して、研究活動を体験したり、「自分のこれは世界一」だという分野や技術を持った教授の方々と交流したりする中で、このような環境で学びたいという気持ちが一層強くなった。

2. 高校3年生前半

先輩からの紹介で52Hzという海外大学を目指す中高生のオンラインコミュニティを見つけて参加した。海外大学受験に必要な情報を海外大学生から直接もらうことができた一方で、他の海外大学を目指す中高生と自分との差を目の当たりにした。中学生などもっと早い段階から海外大学を目指している人たちは、英語をもっと早いうちに高めておいた上で、グローバルな大会で顕著な成績をすでにとっていて、強い劣等感を感じた。この頃に、アメリカの大学受験の負担を考え、日米併願を基本的に断念し、アメリカの大学への出願が終了するまでは、出願準備に集中することを決めた。高校3年生直前の春休みが最も英語力がのびた。ひたすらに毎日100語ずつ英単語を覚えること、SATの難しい英語の問題を解くことがリーディングの力を上げるには効率が一番良かった。　一方で、課外活動に一貫性を持たせるための短期のビジネス活動などを行なったものの、焦って課外活動を足そうとしてもなかなか成果は出

なかった。　そのため、自分の持っている数少ないカードでどのように大学にアピールすれば良いか、どのように自分というブランドに一貫性を持たせるかということを考えることに夏休みを注いだ。

3. 高校3年生後半

後半の時期は本当に忙しく、授業後、周りは国内大学対策をしている教室で自分だPCでずっとエッセイを書いている状態だった。時間のなさに調べなければならないこと、やらないといけないことが追いついていなかった。その結果失敗も多かった。

- 奨学金の応募に多くの時間がかかることを知らず、Personal Statementを書き始めるのが9月になる。
- 大学について詳しく調べる時間が足りなかったために、JASSOに指定する大学群を詰められず、JASSOに採用いただいても、指定大学群に合格校がなかった。
- 多くの州立がEarly Actionを持っていることを知らず、調べた頃には期限が過ぎていた。
- 英語の成績表の取り寄せが間に合わず、日本語の成績表を一部の大学に送る。
- 大学調べが十分でなかったため、選択と集中ができず、17校に出願し、半月ごとに数校の締切が来る。
- Priority DateやEarly Actionでないと合格率がほぼ0%の大学があるということを知らなかった。
- 周りの人は国内大学向けに力を着実につけている中で、テストで思うような結果が出せない。

時間がない中で、やることがたくさんあり、一校も合格できないのではないかと不安がつきまとう状況は、大きな負担で、体調を崩したり授業中に吐き気がでる日もあった。その中でも、海外大学生の方の支え、FOSに採択いただけるなった喜びや奨学生の方々との交流、課外活動の成功などで、なんとか乗り越えることができた。

この期間で、早く調査して集中と戦略で戦略的に行動する、という力が高められた。海外大学の出願が終わった後に、自分の強みで戦略的に戦えると考えた慶應大学環境情報学部も受験し合格をいただけた。

4. ギャップターム（現在）

2~3月にかけて、4校に合格をいただいた。キャンパスビジットをした際、Austinの、自動運転車が街中を走り、テック企業がどんどん進出する活気ある雰囲気が、私の理想としていた学習環境と一致していて、UT Austinに進学することに決めた。多くの出願校の中でも、ワクワクできる進学先を選ぶことができた。

４年間でInformatics Majorに加え、Entreprenuership Minorの取得を目指す。その上で、一年次でEntrepreneurship Living Learning Communityに参加したり、Human-AI Interaction Labに所属してAIと心理学の融合による新たなユーザー体験について研究を深めていったり、といった活動を通じてビジネスと研究の両面から学びを修めていきたい。

今は、6月から7月にかけて、サンフランシスコでソフトウェア開発のサマープログラムに参加予定で、英語やプログラミングのさらなる成長を目指して活動している。